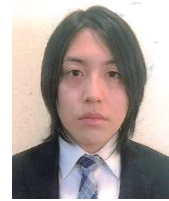


彫刻と空間に対する研究

芸術学部
助手

寺本 幸弥



研究シーズの紹介

本研究は自身の立体作品と環境空間との共存を考え、そこから社会との繋がりを見出して現代における彫刻の在り方を見出すものである。

現在の彫刻は古典的な木彫や塑造だけではなく、フィギュアやインスタレーション（空間彫刻）といった美術館やギャラリーでの展示だけではない様々な存在方法がある。本研究で

は立体作品を中心として展示場所を問わず、空間に対するアプローチをしていく。工業製品などの既製品も部分的に用いた幅広い表現から、現代における彫刻・立体作品の制作を行い、社会に対するアートの存在意義をパブリックアートなどの屋外作品としての研究と共に行っていく。



大衆に向けたアート

- 美術館などアートだけの場所以外での体験をする機会がある
- 気軽に見られるパブリックアートとしての自然な美術教育

・ 展示空間の活用例



大学内における野外展示



東京ガーデンテラス紀尾井町
オフィスエントランスでの展示

期待される活用シーン

- 地域のイベントや施設で象徴的なモニュメントがほしい
(例：地域産業)



その地域や環境に合わせた立体作品の制作と発表



- 美術教育の機会を増やしたい
(例：教育現場)



野外や美術館以外の施設での作品展示



Resonate gallery wabi presents
直方市・忘覚庵

その他の研究テーマ

- ・ 樹脂による表現技法の研究
- ・ 金属と異素材の組み合わせによるミクストメディア